

阿蘇火山中岳第1火口の温度変化と火山活動

Volcanic activity and surface temperature of crater lake in Aso volcano

吉川 慎[1]; 須藤 靖明[2]

Shin Yoshikawa[1]; Yasuaki Sudo[2]

[1] 京大・理; [2] 京大・理・火山研究センター

[1] Aso Volcanological Laboratory, Kyoto Univ.; [2] Aso Volcanol. Lab., Kyoto Univ

阿蘇中岳第1火口は、1989年から1993年はじめまでの断続的なストロンボリ式噴火の発生後、現在まで火口底全面に水が溜まった(湯だまり)状態が継続している。1994年以降の主な表面現象としては、1994年から1995年にかけての第1火口中央部での土砂噴出現象、1996年の第1火口南壁の噴気口周辺での赤熱現象および中央部での土砂噴出現象があった。1997年以降は南壁の噴気活動のみの静穏な状態であったが、2000年から再び南壁の赤熱現象がみられはじめ、現在まで継続している。また、2003年7月10日に土砂噴出現象が発生し、それ以降湯だまりおよび南壁の赤熱の温度は比較的高い状態で推移している。

今回は、1993年から現在までの湯だまりおよび南側火口壁の温度変化と火山活動の対応を解説するとともに、色彩計を用いた湯だまりの色変化の測定を2003年2月から開始したので、その結果と火山活動との対応もあわせて報告する。